



宮崎の畜産

2020



宮崎県の畜産について
紹介するよ！



宮崎県農政水産部畜産新生推進局

●トピックス

県産食肉輸出拠点施設の完成

「宮崎牛」をはじめとした県産牛肉、県産豚肉の輸出拡大と国内販売力の強化を目的として、株式会社ミヤチク都農工場がEUへの輸出基準を満たした「輸出拠点施設」として整備され、令和元年8月29日にEU向けに「宮崎牛」が初出荷されました。

また、鶏肉の安定的な供給体制及び輸出体制の確立を目的として、宮崎くみあいチキンフーズ株式会社川南食品工場が高水準の処理・衛生レベルを備えた「輸出拠点施設」として整備され、ブロイラーだけではなく「みやざき地頭鶏」の輸出も目指します。



宮崎初！次世代閉鎖型牛舎が新富町に完成！

牛舎の側面に給気用と排気用の換気扇を配置し、牛舎内の環境計測用センサにより、換気扇を自動制御し、舎内温度・湿度・風速を均一に保つ「次世代閉鎖型牛舎」が新富町に完成しました。

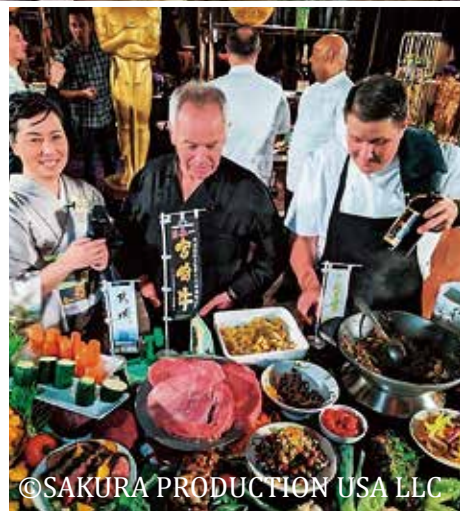
温暖な気候のため、夏場の暑熱対策が必要な宮崎県において、乳牛にとって最適な環境を実現でき、乳量・受胎率等の向上も見込まれます。



『第92回アカデミー賞授賞式アフターパーティー』で3年連続の「宮崎牛」採用

「アメリカ映画の祭典」とも称される第92回アカデミー賞授賞式のアフターパーティー（ガバナーズ・ボール）で提供される料理に、3年連続で宮崎牛が食材として採用されました。

メニューを考案した世界的有名シェフ、ウルフギャング・バック氏は、宮崎牛について、「宮崎牛はやわらかくて味わい深く、世界最高の牛肉。質の高い食材は常に人気だ。お肉が好きな人にとって、宮崎牛は最上位の楽しみなんだ。」とこれまでと同様に高く評価されました。



ASF等緊急総合対策事業

ASF及びCSFの感染要因の一つとされる野生イノシシの農場への侵入防止対策を講じるため、ASF侵入防止緊急支援事業（（独）農畜産業振興機構）に県の支援を行い、農場における柵の設置を推進するとともに、水際対策を含め、緊急かつ総合的な防疫の強化を図りました。



目

次

I	農業の概要	1
II	畜産の概要	3
III	宮崎県畜産新生推進プラン	4
IV	畜種別飼養動向	
1	肉用牛	7
2	乳用牛	11
3	豚	13
4	採卵鶏	14
5	ブロイラー	15
6～8	みやざき地頭鶏、農用馬、みつ蜂	16
V	飼料	17
VI	家畜衛生	19
VII	環境保全	22
VIII	畜産金融	23
IX	試験研究	25
X	資料編	
1	県の畜産関係組織図	27
2	畜産関係団体	29
3	統計表	31
4	平成以降の畜産の動き	41
○	全日本ホルスタイン共進会について	42

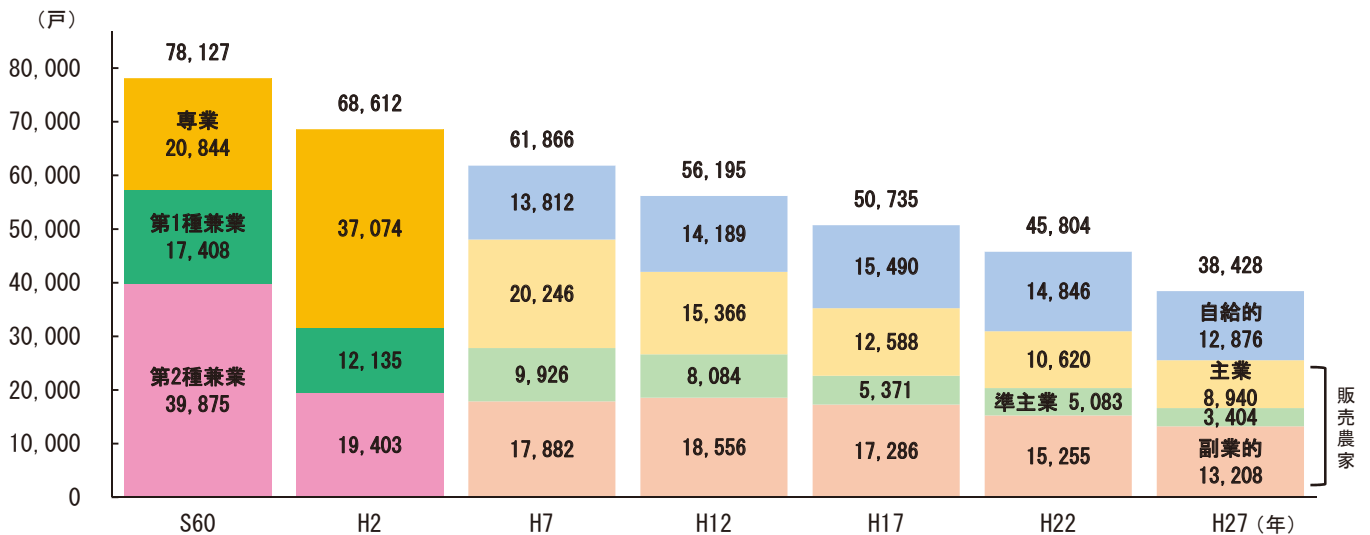


I 農業の概要

1 本県農業の位置づけ

区分	単位	区 分					資 料
		宮 崎	九 州	全 国	宮/九	宮/全	
農家総数	1,000戸	38.4	309	2,155	12.4	1.8	「2015年農林業センサス」
販売農家	1,000戸	25.6	199	1,330	12.8	1.9	〃
主業農家	1,000戸	8.9	58	294	15.2	3.0	〃
農業就業人口	1,000人	45.0	328	2,097	13.7	2.1	〃
耕地面積	1,000ha	66.0	525	4,397	12.6	1.5	農林水産省：令和元年耕地面積
田面積	1,000ha	35.4	307	2,393	11.5	1.5	〃
畑面積	1,000ha	30.6	218	2,004	14.0	1.5	〃
農業産出額	億 円	3,429	17,856	91,283	19.2	3.8	農林水産省：平成30年農業産出額及び
生産農業所得	億 円	1,210	6,546	34,562	18.5	3.5	生産農業所得統計

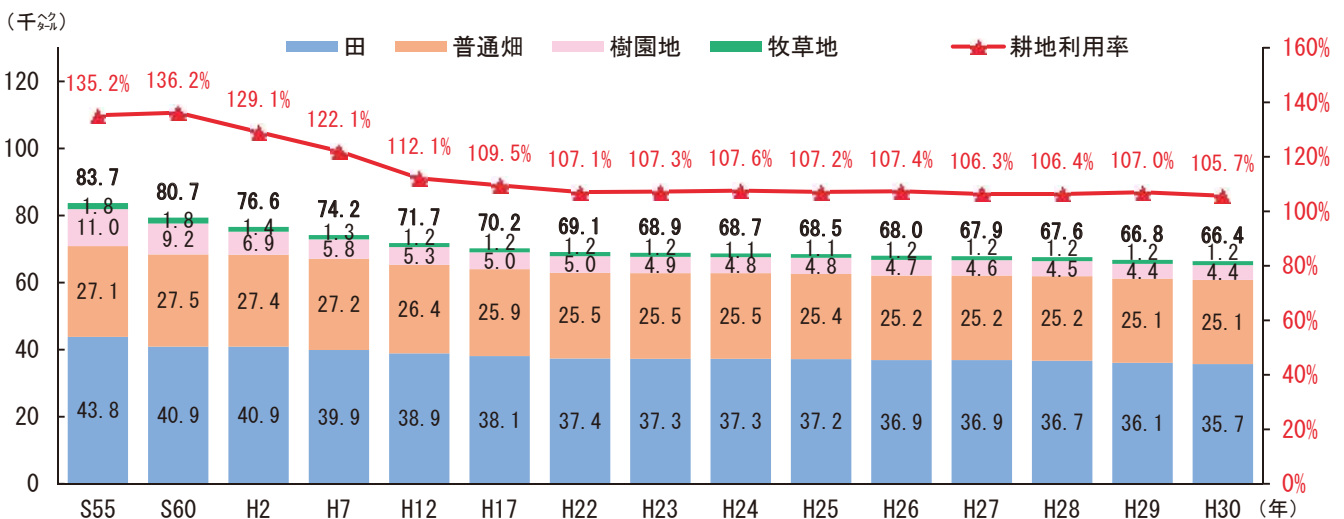
2 農家戸数



※「自給的農家」とは、経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家、
 「販売農家」とは、経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家をいう。
 ※「主業農家」とは、農業所得が主（所得の50%以上が農業所得）で、65歳未満の農業従事者60日以上の方がいる農家、
 「準主業農家」とは、農外所得が主で、65歳未満の農業従事者60日以上の方がいない農家をいう。
 「副業的農家」とは、65歳未満の農業従事者60日以上の方がいない農家をいう。
 ※平成3年～12年において、自給的農家を除く各農家の割合は、販売農家数に対する割合である。

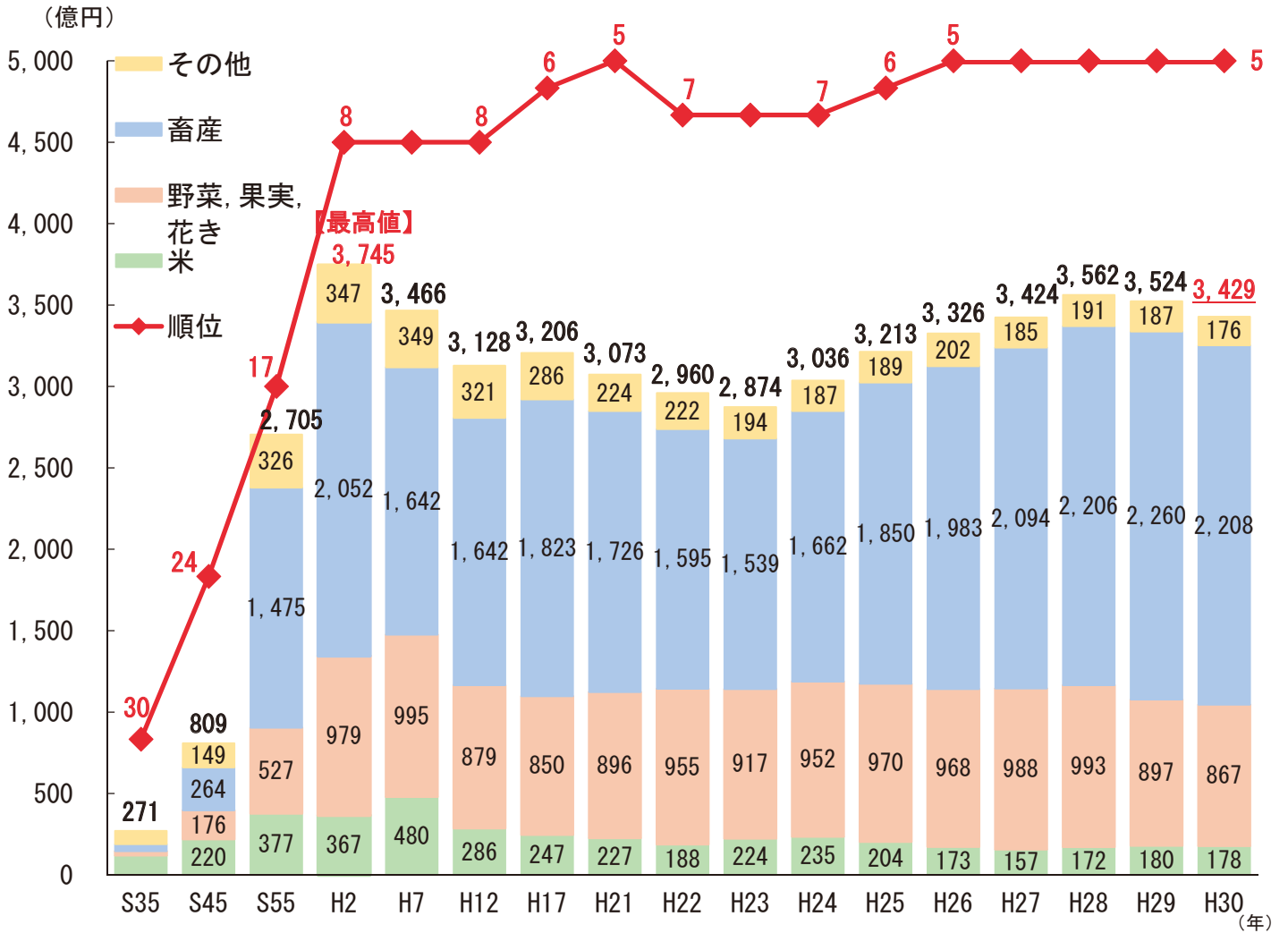
資料：「農林業センサス」
 「農業構造動向調査」

3 耕地面積及び耕地利用率の推移



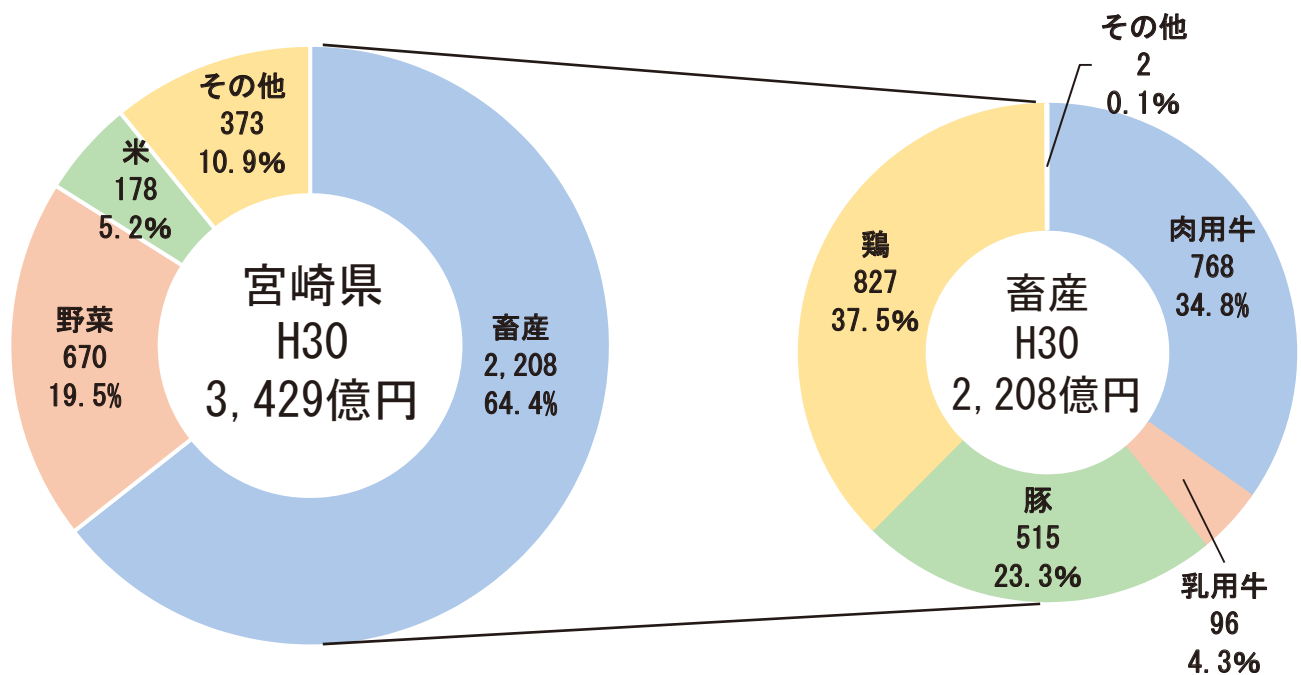
資料：「耕地及び作付面積統計」

4 農業産出額



資料：「生産農業所得統計」

5 宮崎県の産出額の構成



Ⅱ 畜産の概要

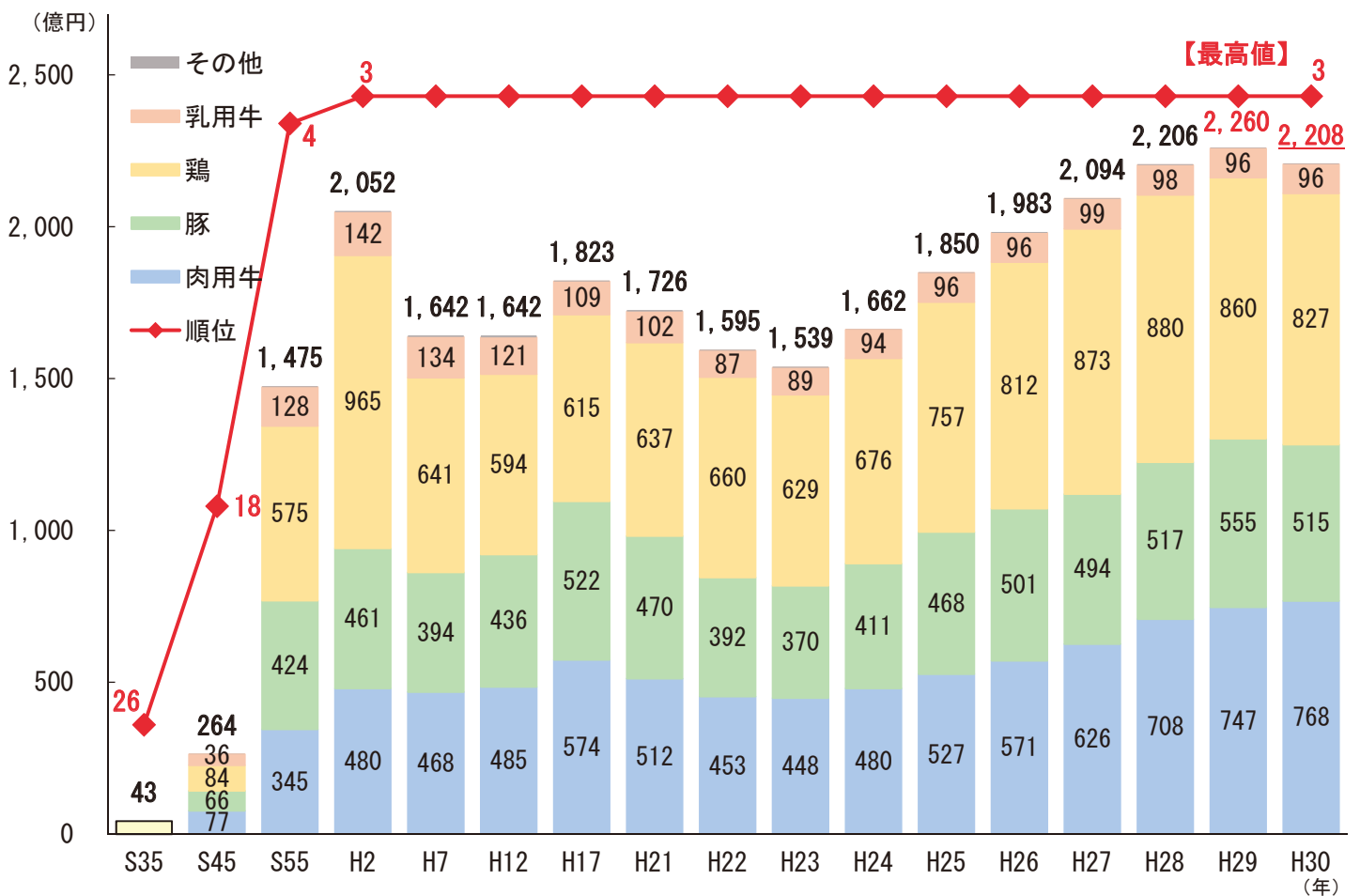
1 本県畜産の位置づけ

平成31年2月1日現在（単位：頭、千羽）

区分	全国	九州	県別順位					備考	宮崎県/ 全国シェア
			1	2	3	4	5		
肉用牛	2,503,000	913,600	北海道 512,800	鹿児島県 338,100	宮崎県 250,300	熊本県 125,300	岩手県 88,700		10.0%
乳用牛	1,332,000	105,300	北海道 801,000	栃木県 51,900	熊本県 43,700	岩手県 42,000	群馬県 34,000	宮崎県 13,700 (13位)	1.0%
豚	9,156,000	2,879,000	鹿児島県 1,269,000	宮崎県 835,700	北海道 691,600	群馬県 629,600	千葉県 603,800		9.1%
採卵鶏	182,368	24,821	茨城県 15,167	千葉県 12,382	鹿児島県 11,717	岡山県 10,387	広島県 9,356	宮崎県 4,451 (20位)	2.4%
ブロイラー	138,228	70,121	宮崎県 28,236	鹿児島県 27,970	岩手県 21,647	青森県 6,943	北海道 4,920		20.4%

資料：「畜産統計」

2 畜産産出額の推移



資料：農林水産省作成
「農業産出額」

Ⅲ 宮崎県畜産新生推進プラン

(平成28年8月策定)

「宮崎県畜産新生推進プラン」

全国モデルとなる安全・安心で付加価値や収益性の高い畜産の構築

～忘れない～

防疫体制の強化

連携体制の強化と防疫意識の醸成

- ◆ 市町村、県内畜産関係団体、近隣県等との連携強化、家畜防疫情報メールによる情報共有や防疫研修会等による防疫意識の醸成など

家畜防疫対策の充実

- ◆ 「水際防疫」「地域防疫」「農場防疫」、万が一の発生時の「迅速な防疫措置」を4つの柱とする防疫対策の充実など

～そして前へ～

視点1「生産力」の向上

生産基盤の強化

- ◆ 「人・牛プラン」、「クラスター計画」の着実な実行、地域を牽引する担い手への施策の集中、繁殖センターやヘルパー組合等との連携による地域ぐるみの生産基盤の強化など

生産コストの低減

- ◆ 粗飼料の収穫・調製を行うコントラクターの育成、エコフィードの普及・拡大による飼料生産コストの低減など

生産性の向上

- ◆ 分娩間隔の短縮に向けた発情発見装置などのICTの活用や、細霧や送風などのソーカーシステムの導入、飼養衛生管理の改善、それぞれの家畜の育種・改良の促進など

視点2「人材力」の強化

地域畜産を牽引する人材の育成

- ◆ 繁殖センターや篤農家との連携による地域ぐるみで担い手を育成する取組の強化など

高度な技術を有する指導者確保

- ◆ 外部講師の招聘による高度な技術力と経営管理能力を備えた「畜産マスター」の育成など

視点3「販売力」の強化

ブランド力強化による取引拡大

- ◆ 生産者、関係機関・団体と一体となった戦略的連携による販売・輸出の強化など

畜産関連産業の機能強化

- ◆ 最新鋭食肉・食鳥処理施設の整備、二次加工等によるバリューチェーンの強化など

～新たな国際化に対応したみやざき畜産の成長産業化～

家畜防疫対策の4本柱

1 水際防疫



空港での靴底消毒マット設置



空港での検疫探知犬活動

2 地域防疫



市町村自衛防疫推進協議会による
地域の巡回消毒活動



地域での防疫演習
(防護服着脱訓練)

3 農場防疫



農場における飼養衛生管理基準の
遵守状況確認



鳥インフルエンザ発生予防のための
鶏舎周囲への消石灰散布

4 迅速な防疫措置



家畜伝染病発生を想定した
机上防疫演習



口蹄疫発生を想定した
養豚農場での事前調査班研修会

みやざき畜産の成長産業化の視点

1 「生産力」の向上



畜産クラスター事業で整備した
和牛繁殖センターでの妊娠牛の譲渡会
(えびの市)



畜産クラスター事業で整備した
搾乳ロボット (新富町)

2 「人財力」の強化



肉用牛繁殖農家で畜産マスター
(指導人材育成)の現地研修



バーンミーティングによる学修会
(都城市)

3 「販売力」の強化



EU向けに「宮崎牛」初出荷



河野知事がアメリカにて
宮崎牛のトップセールスを実施

IV 畜種別飼養動向

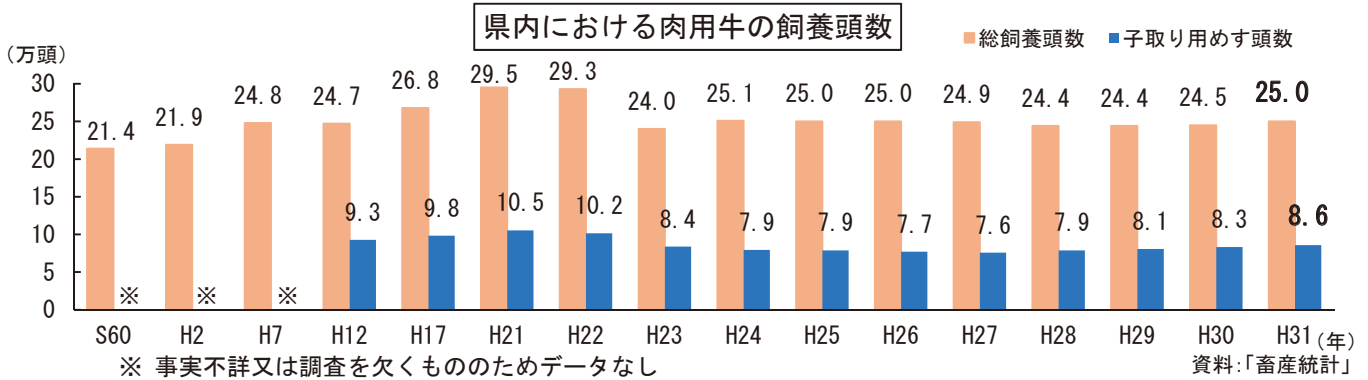
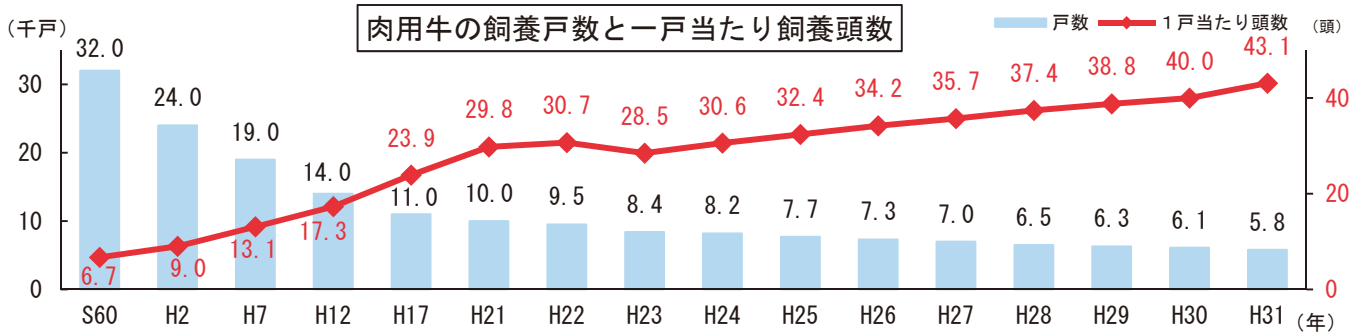


1 肉用牛

(1) 肉用牛の飼養状況

①戸数と頭数の推移

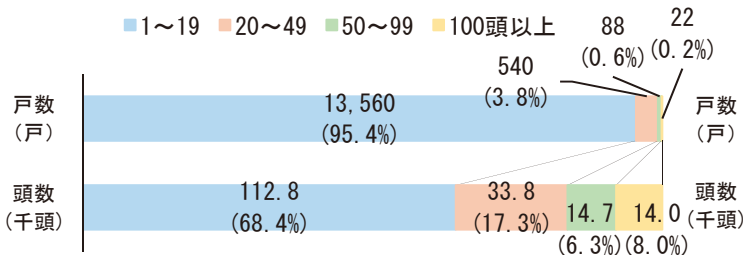
肉用牛の飼養戸数は年々減少し、飼養頭数は、平成22年に発生した口蹄疫により激減して以降、ほぼ横ばいで推移していたが、平成30年からは増加に転じている。一戸当たりの頭数は平成24年から年々増加し、平成31年には43頭に達している。



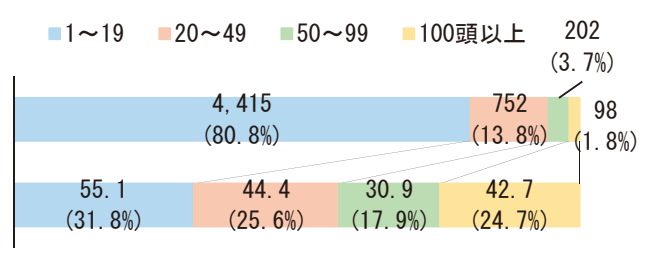
②飼養規模別戸数・頭数

飼養規模別戸数について、繁殖経営、肥育経営共に、平成11年と比較して平成31年には小規模経営が減少し、中、大規模経営の戸数が増加している。また飼養頭数についても同様に、小規模経営の割合が大幅に減少し、中、大規模の割合が増加し、規模拡大が進んでいることが伺える。

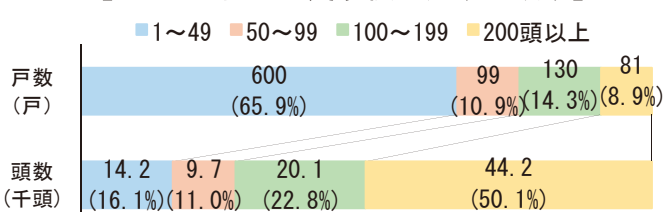
【H11 繁殖牛飼養規模別戸数・頭数】



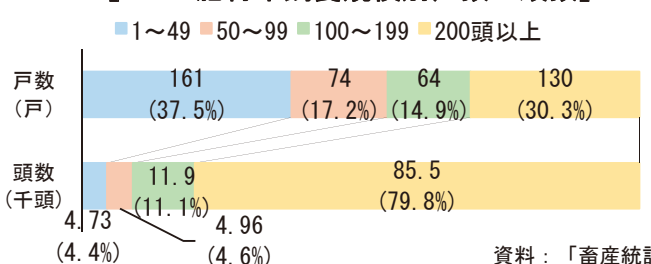
【H31 繁殖牛飼養規模別戸数・頭数】



【H11 肥育牛飼養規模別戸数・頭数】



【H31 肥育牛飼養規模別戸数・頭数】



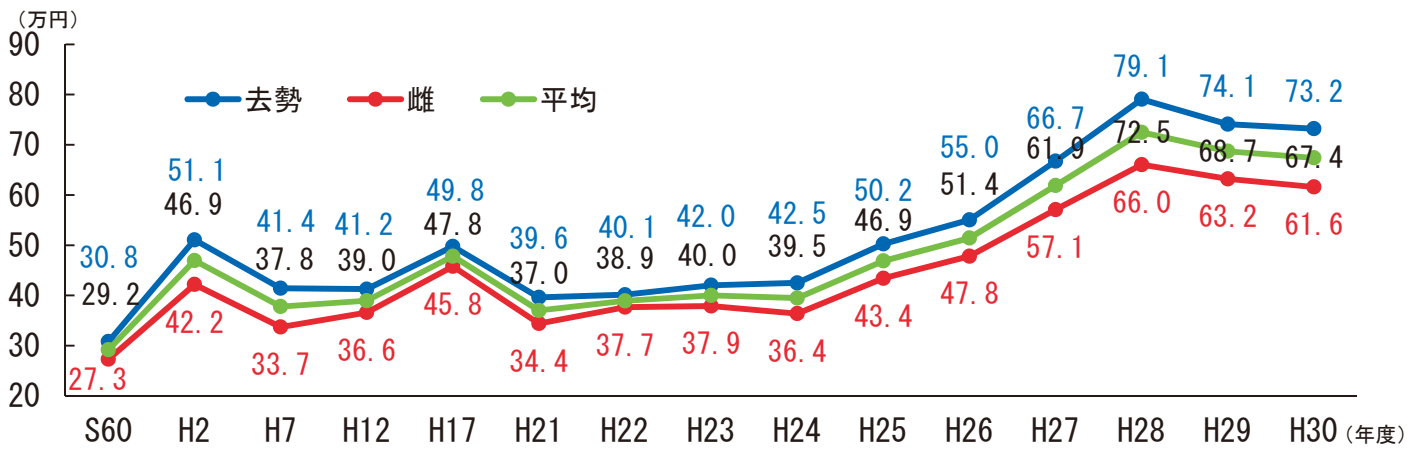
※飼養頭数は、各階層の飼養者が飼っている全ての肉用牛(肉用種及び乳用種)の頭数である。

資料:「畜産統計」

(2) 肉用子牛の出荷状況

①価格の推移（消費税抜き）

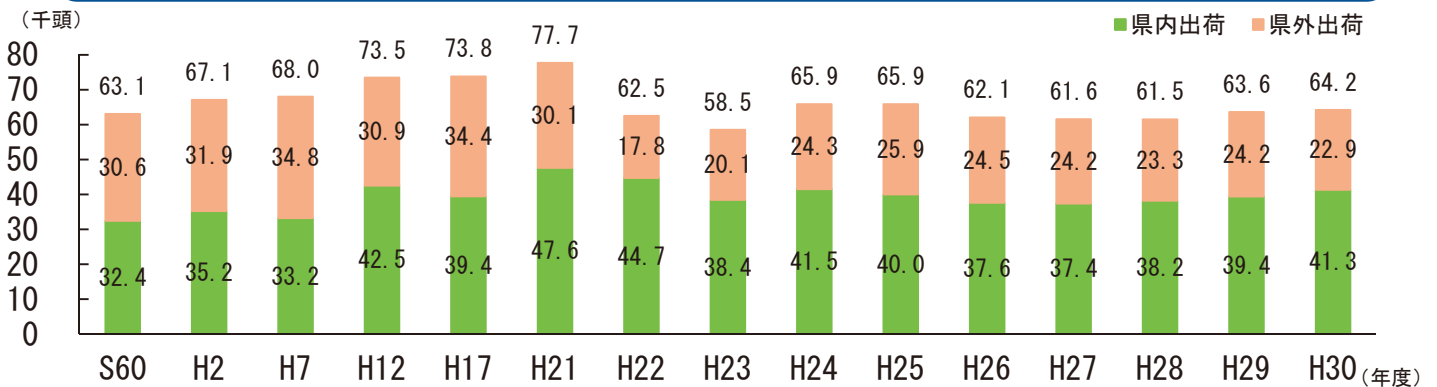
肉用子牛の価格は、平成25年度に上昇に転じ、平成28年度には過去最高水準に達した。平成29年度以降は平成28年度の価格を下回っているものの、高値で推移している。



資料：「県畜産振興課調」「宮崎県畜産協会調」

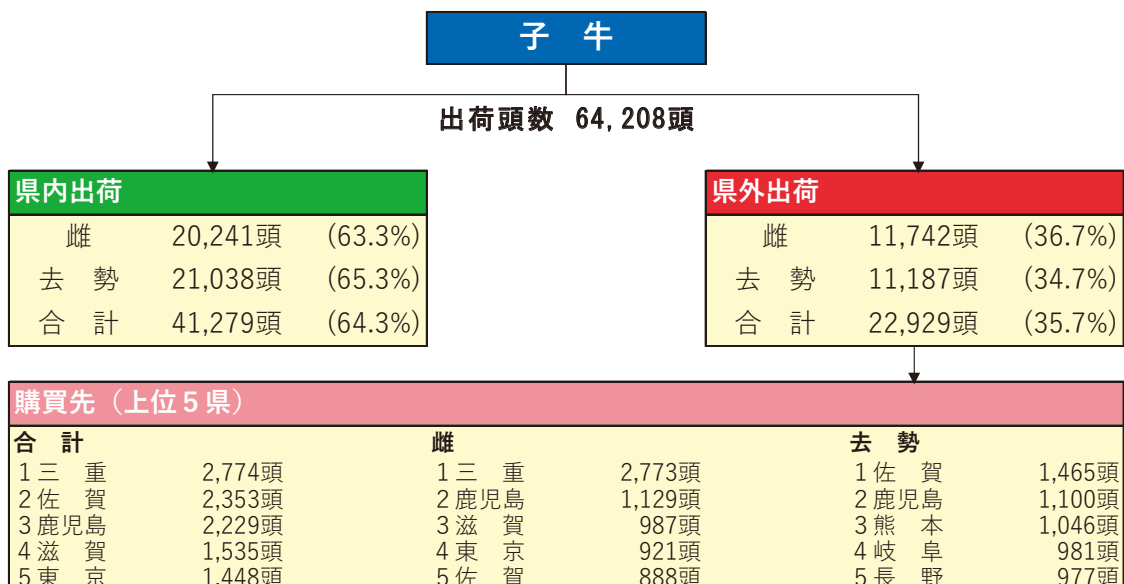
②出荷の推移

肉用子牛の出荷頭数は、平成22年に発生した口蹄疫により激減したが、平成24年度以降は6万頭台で推移している。平成26年度から平成28年度までは微減の傾向だったが、繁殖雌牛の飼養頭数の増加に伴い平成29年度には増加に転じた。



資料：「県畜産振興課調」「宮崎県畜産協会調」

③流通状況（平成30年度）

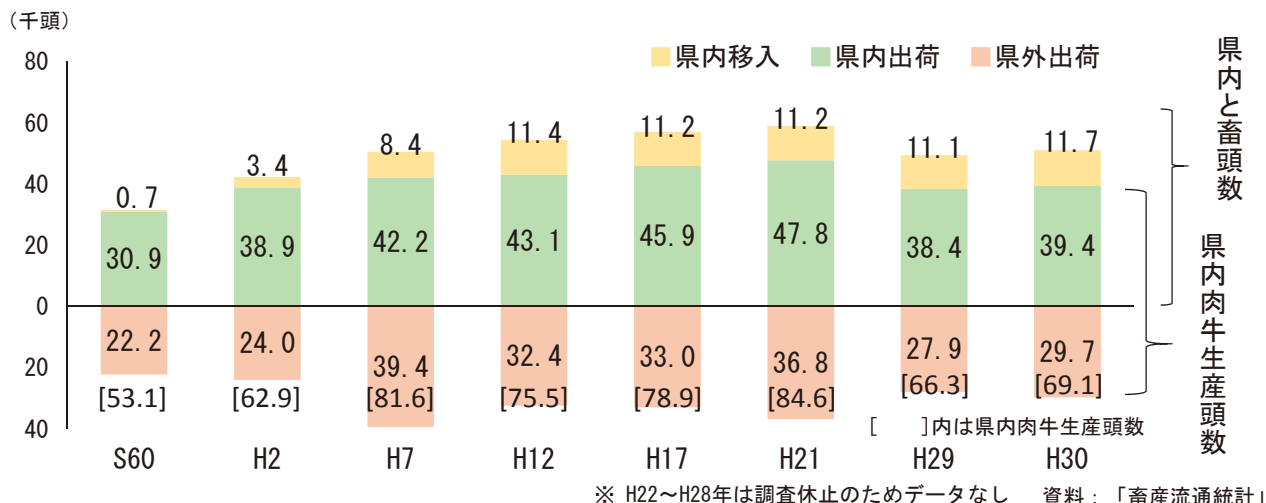


資料：「県畜産振興課調」、「宮崎県畜産協会調」

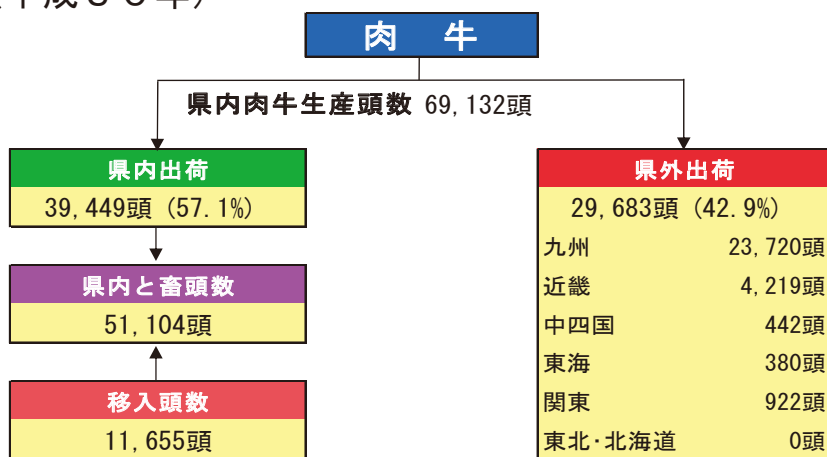
(3) 肉牛の出荷状況

①頭数の推移

県内における肉用牛の出荷頭数は、平成29年から3千頭増加した。県内への出荷頭数は約6割であり、県外からの移入頭数は横ばいで推移している。

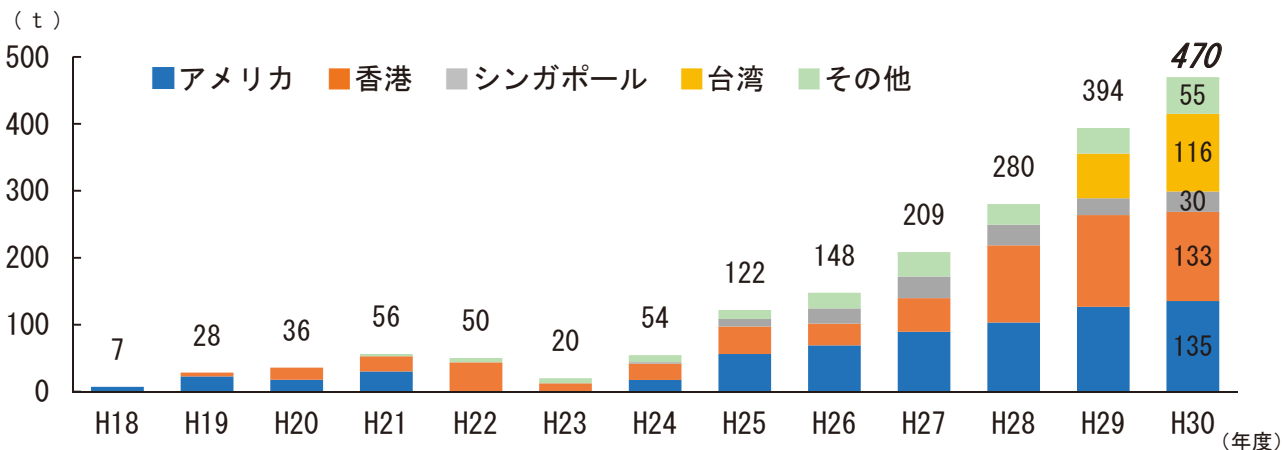


②流通状況 (平成30年)



③宮崎県産牛肉輸出量の推移

県産牛肉の輸出は平成2年度に始まり、BSEや口蹄疫発生により輸出量は一時的に落ち込んだものの平成24年度以降順調に伸び、平成30年度には過去最高の470tを達成した。



(4) 肉用牛の生産基盤強化に関する取組について

肉用牛生産者の規模拡大や肉用牛生産に係る作業の分業化・省力化を推進するため、妊娠牛や子牛を供給する繁殖センターの整備や、セリまでの子牛育成を担うキャトルセンターやキャトルブリーディングセンターの整備を県内一円で展開。

令和元年度までに23の施設が整備され、地域の肉用牛生産を支援するセンターとして運営されている。

● 繁殖センター ◆ キャトルセンター ■ 繁殖+キャトルセンター

【 】 施設を整備した年度

() 施設の規模

県全域 23か所

(繁殖・育成牛2,175頭、不妊牛300頭、
キャトル1,676頭)

高千穂町

- J A 高千穂地区中川繁殖センター
【平成27年度】(165頭)
- J A 高千穂地区田原センター
【令和元年度】(56頭)

小林市

- 小林市営牧場
【昭和46年度】(220頭)
- J A こばやし第2繁殖センター
【平成30年度】(120頭)

えびの市

- J A えびの市和牛繁殖センター
【平成29年度】(300頭)

高原町

- J A こばやし繁殖センター
【平成16年度】(80頭)

都城市

- J A 都城繁殖センター
【平成26年度】(60頭)
- J A 都城育成牛センター
【平成29年度】(144頭)

串間市

- J A はまゆう繁殖センター
【平成24年度】(120頭)
- ◆ 笠祇肉用牛生産組合
【平成12年度】(80頭)

延岡市

- J A 延岡繁殖共同飼育施設
【平成29年度】(92頭)
- ◆ J A 延岡キャトルセンター
【平成25年度】(188頭)

美郷町

- J A 日向繁殖センター
【平成29年度】(50頭)

木城町

- J A 宮崎経済連生産実証農場
(270頭)

西都市

- J A 西都キャトル・繁殖センター
【平成20年度】(249頭)

国富町

- J A 宮崎中央肉用牛総合ファーム
【平成14年度】(460頭)

綾町

- 綾町肉用牛総合支援センター
【平成26年度】(372頭)
- J A 綾町肉用牛総合育成センター
【平成9年度】(180頭)
- J A 宮崎経済連妊娠牛供給センター
【平成19年度】(160頭)
- J A 綾町尾立繁殖センター
【平成28年度】(50頭)
- ◆ J A 綾町キャトルステーション
【平成5年度】(200頭)
- ◆ J A 綾町哺育センター
【平成28年度】(35頭)

宮崎市

- J A 宮崎中央肉用牛総合ファーム
【平成25年度】(500頭)

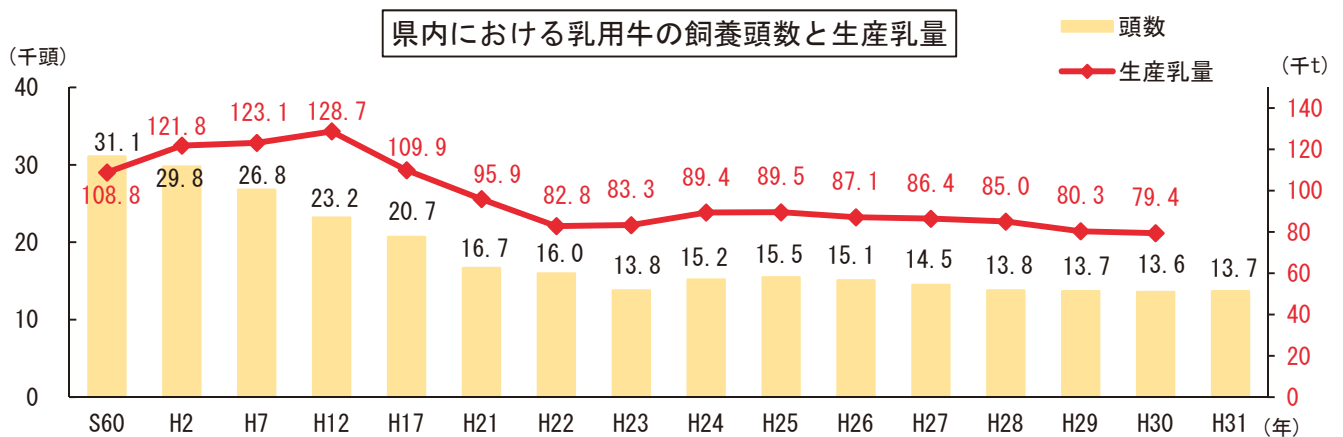
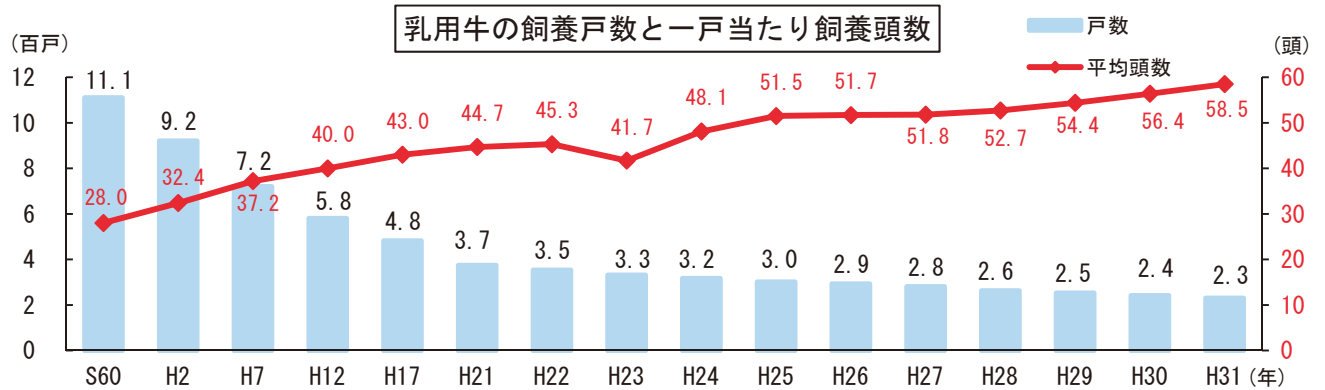
資料：「県畜産振興課調」

2 乳用牛

(1) 乳用牛の飼養状況

① 戸数と頭数の推移

戸数・頭数とも年々減少しているが、平成24年以降は戸数の減少に比べ、頭数の減少は緩やかで、一戸当たりの平均飼養頭数が伸びており、規模拡大が進んでいる。

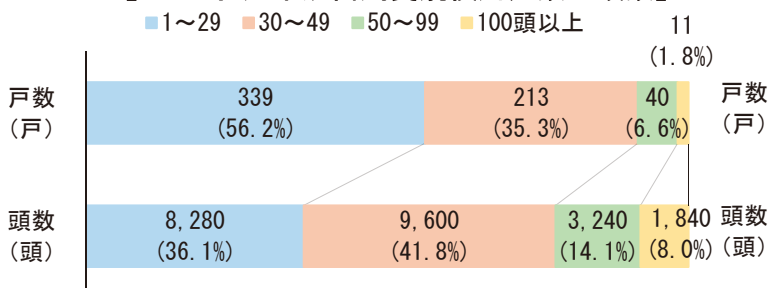


資料：「畜産統計」
「牛乳・乳製品統計」

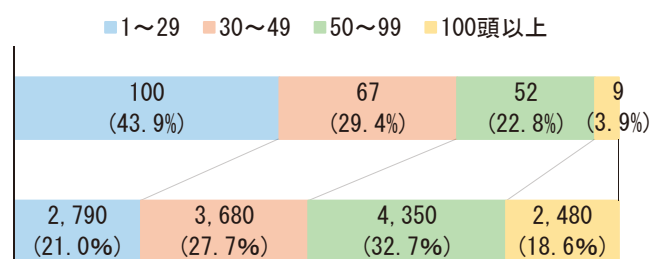
② 成畜飼養規模別戸数・頭数

50頭規模未満の農家は、平成11年には戸数で全体の92%、飼養頭数で78%を占めていたが、平成31年には戸数で73%、飼養頭数で49%と減少している。一方で、50頭規模以上の農家が、平成31年には戸数で全体の27%、飼養頭数で51%を占めるなど、大規模化が進んでいる。

【H11 乳用牛成畜飼養規模別戸数・頭数】



【H31 乳用牛成畜飼養規模別戸数・頭数】

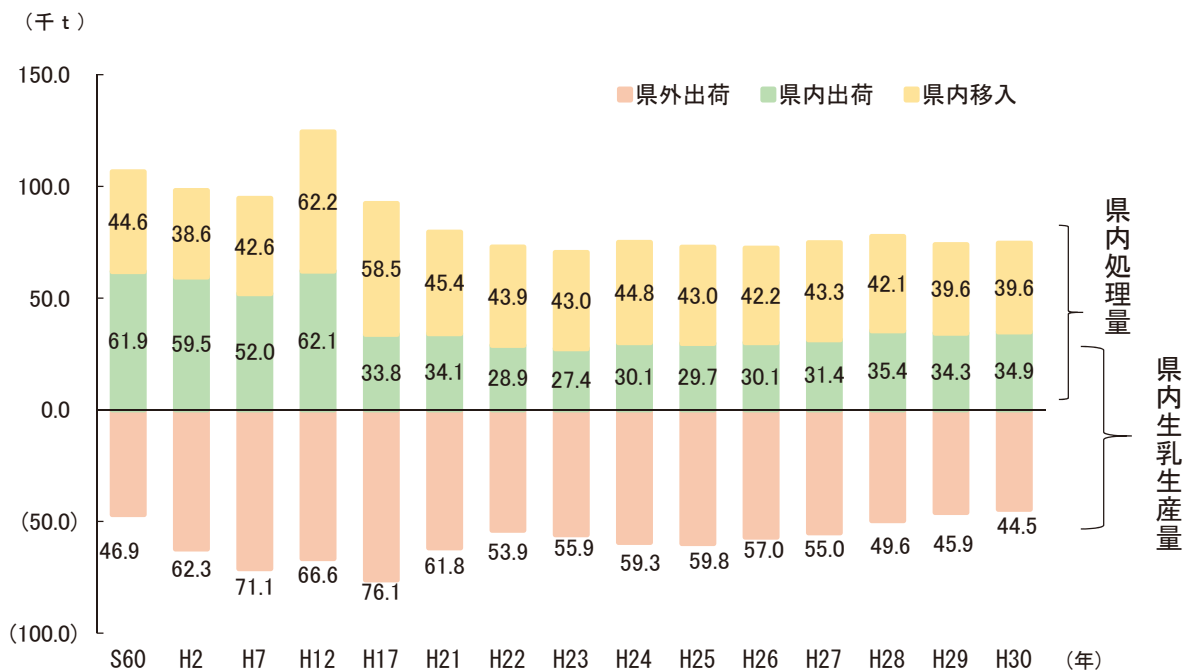


資料：「畜産統計」

(2) 生乳の出荷状況

① 出荷の推移

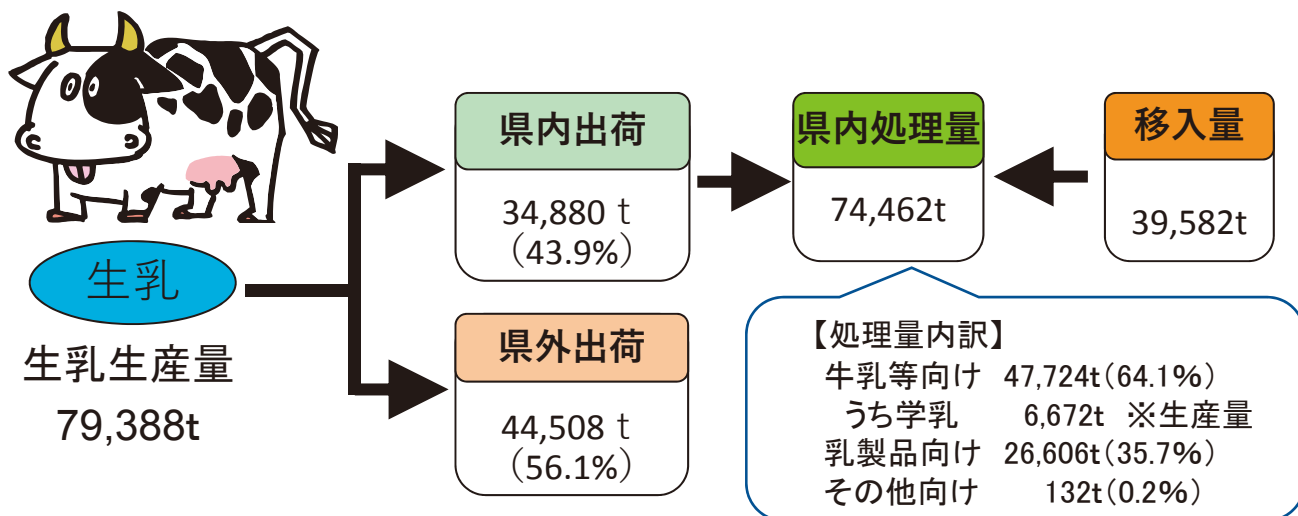
生乳の出荷量は、平成12年をピークに減少傾向にある。県内処理量は県内産と県外から移入してきた分を合わせて、7万t台の処理量となり、ほぼ横ばいの状況となっている。



資料：「牛乳・乳製品統計」

② 流通状況（平成30年）

県内で生産された生乳の56%は県外に出荷され、県内で処理される生乳の64%が牛乳等向けとなっている。

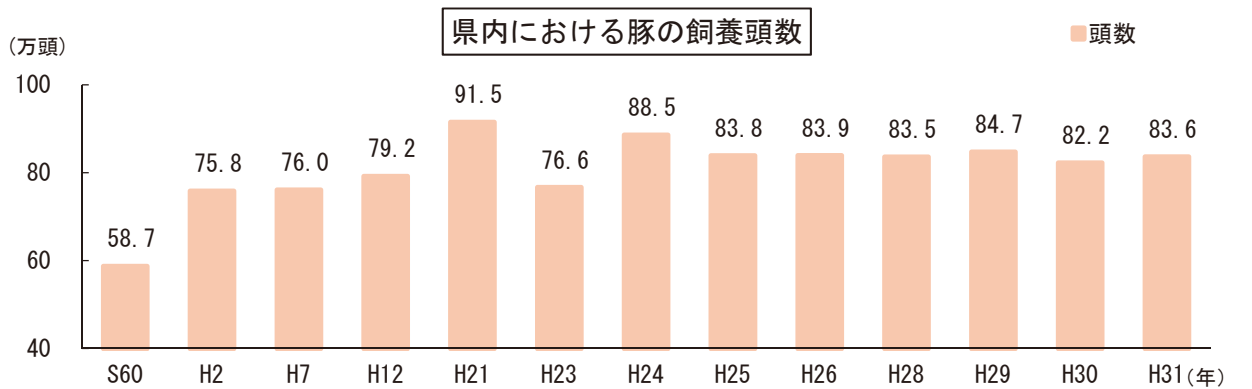
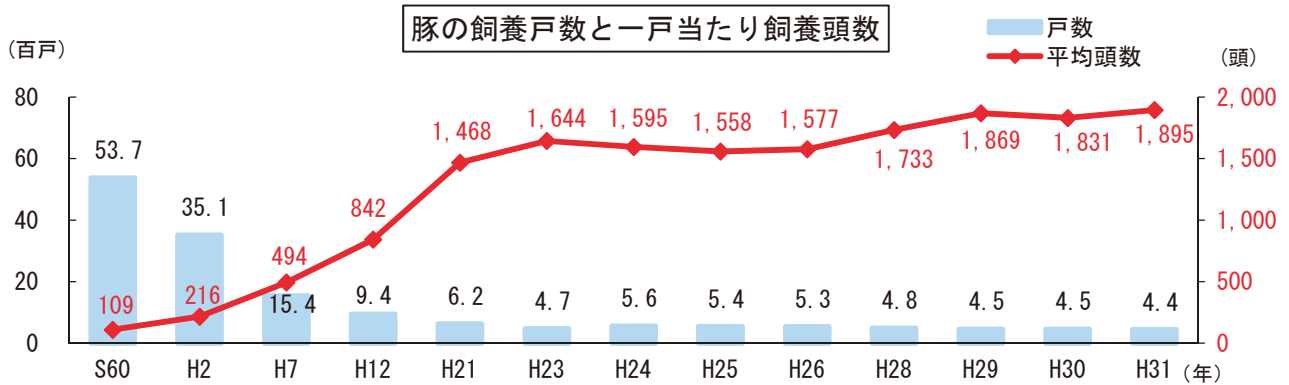


資料：「牛乳・乳製品統計」

3 豚

(1) 戸数と頭数の推移

戸数は減少傾向にあったが、平成24年以降は、減少数は緩やかとなっている。飼養頭数については、ほぼ横ばいで推移しており、一戸当たりの飼養頭数が増えてきている。



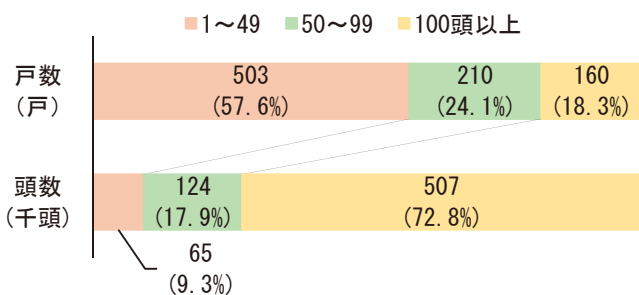
※平成17・22・27年は調査休止のためデータなし

資料：「畜産統計」

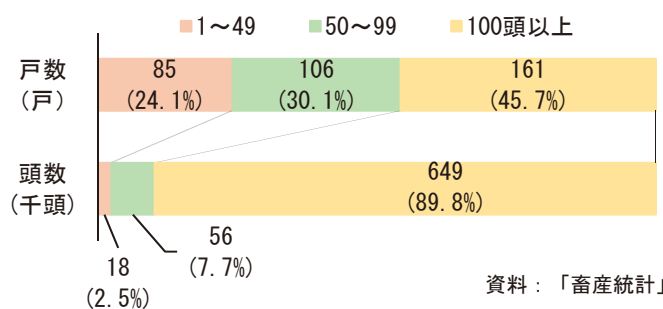
(2) 子取り用雌豚飼養規模別戸数・頭数

子取り用雌豚の飼養頭数100頭規模以上の農家は、平成11年には戸数で全体の18%、飼養頭数で73%であったが、平成31年には戸数で46%、飼養頭数で90%を占めるなど、大規模化が進んでいる。

【H11 子取り用雌豚飼養規模別戸数・頭数】



【H31 子取り用雌豚飼養規模別戸数・頭数】



資料：「畜産統計」